

H2 4.1 1.5 設楽ダム魚類検討会 議事概要

○日 時：平成24年11月5日（月） 14時00分～17時00分

○議事概要：

表 H2 4.1 1.5 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の経緯について	・魚類検討会の経緯について報告した。	・特になし。	・特になし。	・特になし。
2.野外実験について	・平成24年度における飼育・繁殖の進捗について報告した。	<ul style="list-style-type: none"> 産卵には成功したが孵化仔魚を得ることができなかった。 アメリカツノウズムシによる卵の食害の可能性が考えられた。 	<ul style="list-style-type: none"> pHの推移をみると、上部濾過水槽も改善した外部濾過水槽もともに低下している。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局：外部濾過にすることによりpH低下は緩やかになったが、今後もモニタリングにより、推移を確認する。
			<ul style="list-style-type: none"> 親個体の産卵数が減るなど、何らかの影響があるように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期飼育の影響等が考えられ、今後は新規の親魚採捕等の対応を検討する。
			<ul style="list-style-type: none"> アメリカツノウズムシによる魚卵の食害事例はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局：海外の文献でウズムシ類による魚卵の食害捕食を示す情報がある。
			<ul style="list-style-type: none"> 繁殖時において、行動の観察記録を定性的ではなく、評価可能な状態で取得してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし
・平成24年度以降の放流実験の実施について協議した。	<ul style="list-style-type: none"> 現在放流を行っている実験淵では新たな放流実験は実施しない。 新規実験淵において放流実験を実施するため、新規実験淵の選定、放流個体数を提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> 放流実験は、コンディションが健全な個体のみで実施すべきである。 今後予定されている全淵調査はどの程度の範囲での実施を考えているか 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
			<ul style="list-style-type: none"> 事務局：前回の調査範囲と同等の範囲で行い、比較することを考えている。 	
・野外実験計画の見直しについて協議した。	<ul style="list-style-type: none"> 今後の実施方針、親魚採捕の考え方について提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> 野外実験の基本方針を見直すことは、野外実験の考え方の根幹に係わるため、十分な検討が必要である。 見直しの方針として、（妥協やハードルを下げるということではなく、）検討会でこれまで議論された知見・経緯をふまえ、検討を進めて貰いたい。 これまでの知見から、ネコギギ野外個体群のソース・シンクの考え方が重要となる。 豊川にとって重要なソースを知見の少ない支川へ移植するという難しい前提があるということを承知して頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回以降の検討会で具体的な方針について検討、議論する。 	
			<ul style="list-style-type: none"> 今後も、検討会委員のご指摘を踏まえながら、検討を進めていく。 	

表 H24.1 1.5 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
3.支川のポテンシャルについて	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県工事への対応について報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> 支川Aにおいて、愛知県工事により改変された箇所環境改善方法について提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> 本川の淵と支川 A では、河川の規模が異なるため、環境の評価としては本川ではなく、他支川との比較を行うとよい。 洪水時の検討は行っているが、平水時及び濁水時の検討は行っているのか。 支川 A の環境改善については、工事箇所だけ環境が改善されれば良いということではなく、前後も含めて連続的に良好な環境であることが重要である。 施工する構造物は、出水に耐えうる構造となっているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局：支川の評価、対応方針について検討を進めていく。 事務局：今後、縦断的な流量、水温のチェックを行い、流量が少なくなったときにネコギギが生息できるのか検討を行う。 事務局：ハビタットの連続性の評価も引き続き検討していく。 事務局：出水時にも耐えられる巨石を配置することを計画しており、想定している環境が出来る限り維持できるよう施工の検討をしている。
4.モニタリング調査結果について	<ul style="list-style-type: none"> これまでのモニタリング調査結果について報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> H23 と比較するとやや増加傾向にある淵が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査開始から見ると全体的にネコギギは減少傾向にある。平成 16 年、17 年になぜ増えたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局：個体の増減についての解析は未だできていない。気象や、中小の洪水についてのデータが蓄積されてきており、検討していく。
5.ダムサイト予定地周辺モニタリング調査について	<ul style="list-style-type: none"> これまでのモニタリング調査結果について報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 箇所の淵では継続的に確認されているが、それ以外の淵では確認されなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。